

城下町眼下テレワークを

定額住み放題大洲に物件

全国のリノベーションした空き家などで住み放題のサブスクリプション（定額制）サービスを展開するベンチャー企業「アドレス」（東京）の県内初物件が1月、大洲市大洲にオープンした。城下町や肱川の風景を前にテレワークをしながらの地方生活が可能で、関係者は交流人口の拡大に期待を寄せている。

肱南地区にある2階建ての空き家を活用。改装は古民家などの売買や賃貸借事業を手掛けるKITA（大洲市）が実施し「城下町テラスTAMON」の名称を付けた。

1階が共同利用オフィスのコワーキングスペース、2階がアドレス会員の居住スペースとなっており、個室は4室。トイレや浴室も整備している。気軽にくつろげるように日当たりのいい屋上にはハンモックを置き、交通手段に使ってもらおうとスポーツタイプの自転車計8台も準備した。アドレスによると、2019年

東京のベンチャー 空き家活用 県内第1号

4月から全国にある空き家などを活用し、地方での生活を希望する会員に定額でも滞在できるサービスを展開。多種多様な土地に滞在しながらテレワークなどができる新しい生活スタイルを提案し、深刻化する空き家問題の解消にも寄与することを狙う。21年4



月5日現在で全国139カ所を整備している。サービスはガス代や電気代を含め月額4万4千円で全国の物件を利用できる。家具や寝具も備え付けており、同一物件には1カ月最大2週間滞在できる。

KITAの井上陽祐社長によると、オープン後の稼働率は2月が20%、3月が30%と滑り出しは順調という。井上社長は20〜30代の若者や女性の利用も多いとし「関係人口を一人でも増やし、大洲に活気をもたらしたい」と話した。（薬師神亮太）



④大洲市に整備された城下町テラスTAMON⑤TAMONの屋上。ハンモックに揺られながらくつろぐことができる③月25日午後、大洲市大洲

※リクルート調査による
・業点
卒時

◆とべ動物園のヒマラヤ
ゾウ
ゾウ
ゾウ